

三菱電機株式会社 シーケンサ
MELSEC-FX シリーズ
FX3U-16MCPU
(RS-232 接続)

サンプル画面説明書

サンプルのご利用について

サンプル用の画面データ、取扱説明書などのファイルは、以下の各項に同意の上でご利用いただくものとします。

- (1) 当社製品をご使用中またはご使用検討中のお客様がご利用の対象となります。
- (2) 当社が提供するファイルの知的財産権は、当社に帰属するものとします。
- (3) 当社が提供するファイルは、改竄、転載、譲渡、販売を禁止します。
但し、内容の一部または全てをお客様作成の機器やシステム内の当社製品上でご利用いただく場合は、その限りではありません。また、当社製品をご利用いただいたお客様作成の仕様書、設計書、組み込み製品の取扱説明書などへの転載、複製、引用、レイアウトの変更についてもその限りではありません。
- (4) 当社が提供するファイルやそのファイルから抽出されるデータを利用することによって生じた如何なる損害も当社は補償をいたしません。お客様の責任においてご利用ください。
- (5) 当社が提供するファイルに利用条件などが添付されている場合は、その条件にも従ってください。
- (6) 予告なしに当社が提供するファイルの削除や内容の変更を行うことがあります。
- (7) 当社が提供するファイルのご使用に際しては、対応するマニュアルおよびマニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って正しい取扱いをしてください。

目次

改訂履歴	4
1. 概要	5
2. システム構成	5
2.1 デバイスマニタ範囲	5
3. GOT について	6
3.1 必要なシステムアプリケーション	6
3.2 作画ソフトウェアの接続機器の設定	6
3.3 作画ソフトウェアのオーバーラップウィンドウ設定	6
4. 画面仕様	7
4.1 表示言語	7
4.2 画面一覧・遷移	7
4.3 画面説明	9
4.3.1 メニュー (B-30001)	9
4.3.2 デバイスマニタメニュー (B-30002)	10
4.3.3 アラーム (B-30003)	11
4.3.4 ロギング (B-30004)	12
4.3.5 X デバイス (B-30005)	14
4.3.6 Y デバイス (B-30006)	15
4.3.7 M デバイス (B-30007)	16
4.3.8 D デバイス (B-30008)	17
4.3.9 マニュアル表示 (B-30500)	18
4.3.10 アラームリセット (W-30001)	20
4.3.11 言語設定 (W-30002)	21
4.3.12 時計設定 (W-30003)	22
4.3.13 X (Y、M) デバイス変更確認 (W-30004～30006)	23
4.3.14 システムダイアログ	24
4.4 使用デバイス一覧	25
4.5 コメント一覧	26
4.6 スクリプト一覧	26
5. マニュアル表示について	30
5.1 マニュアル表示用ドキュメントデータの準備	30
6. その他	31
6.1 システムアプリケーションの手動選択方法	31

改訂履歴

サンプル画面説明書

改訂日付	管理番号*	改訂内容
2014/8	BCN-P5999-0388	初版
2015/2	BCN-P5999-0388-2	ドキュメント ID のデバイス指定対応

* 管理番号は、右下に記載しています。

プロジェクトデータ

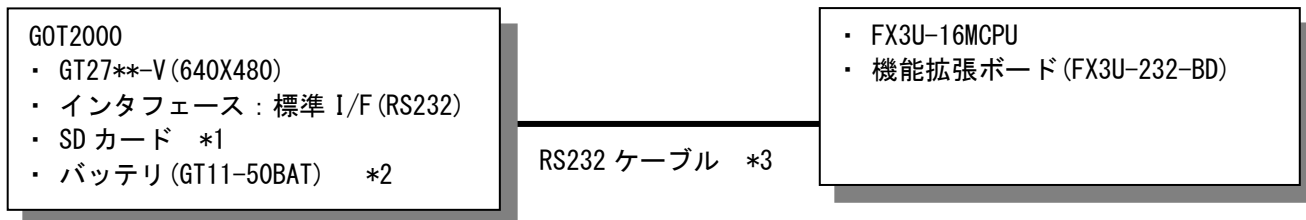
改訂日付	プロジェクトデータ	GT Designer3*	改訂内容
2014/8	mitsubishi_fxcpu-rs232_v_ver1_j.gtx	1.117X	初版
2015/2	mitsubishi_fxcpu-rs232_v_ver2_j.gtx	1.126G	ドキュメント ID のデバイス指定対応

* プロジェクトデータ作成時に使用した作画ソフトウェアのバージョンです。記載したバージョンと同等、またはそれ以降のバージョンの作画ソフトウェアを使用してください。

1. 概要

GOT2000 と MELSEC-FX シリーズシーケンサ (FX3U-16MCPU) をシリアル (RS-232) で接続し、アラーム機能、ロギング機能、デバイスモニタを使用するサンプル画面の説明書です。

2. システム構成



*1 : SD カードは、ロギング機能・ドキュメント表示機能で使用しています。

*2 : バッテリーは、時計データおよび SRAM ユーザ領域のロギングデータ・ユーザアラームデータの停電保持に使用しています。(バッテリーは GOT 本体に標準装備しています。)

*3 : ケーブルの詳細については、「GOT2000 シリーズ接続マニュアル(三菱電機機器接続編)」を参照してください。

2.1 デバイスモニタ範囲

このサンプルではデバイスモニタ範囲を以下とします。

デバイス	デバイスモニタ範囲
X	0000-0377 (8 進数)
Y	0000-0377 (8 進数)
M	0-7679
D	0-7999

3. GOT について

3.1 必要なシステムアプリケーション

種類	システムアプリケーションの名称		
基本機能	基本システムアプリケーション		
	標準フォント	日本語	
通信ドライバ	MELSEC-FX		
拡張機能	標準フォント		中国語(簡体)
	アウトラインフォント	ゴシック	英数かな
			日本語漢字
			中国(簡体)漢字
	FX 回路モニタ *1		
	ドキュメント表示		

*1: システムアプリケーションを GOT に書き込む際は、FX 回路モニタのみ手動で選択してください。手動選択方法の詳細については、「6.1 システムアプリケーションの手動選択方法」を参照してください。

3.2 作画ソフトウェアの接続機器の設定

詳細設定

項目	設定値	備考
ポーレート (BPS)	115200 bps	
リトライ回数(回)	0	
通信タイムアウト時間(秒)	3	
送信ディレイ時間(ms)	0	

3.3 作画ソフトウェアのオーバーラップウィンドウ設定

ベース画面の切り換え時にウィンドウ画面を閉じるために、[画面切り換え/ウィンドウ]のオーバーラップウィンドウの[詳細設定]で[ベース画面の切り換えと同時にウィンドウを閉じる]を有効にしています。

4. 画面仕様

4.1 表示言語

画面上に表示する文字列は、日本語・英語・中国語(簡体)の3言語で切り換え表示できます。各言語の文字列は、コメントグループ No. 495~500 の列 No. 1~3 に下記のように登録しています。言語切り換えデバイスに列 No. を格納すると列 No. に対応した言語を表示します。

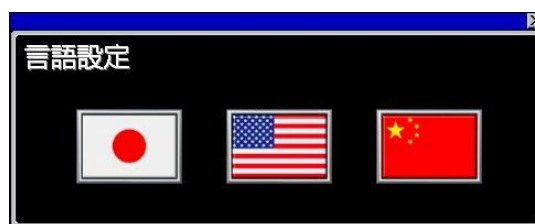
列 No.	言語
1	日本語
2	英語
3	中国語(簡体)

4.2 画面一覧・遷移

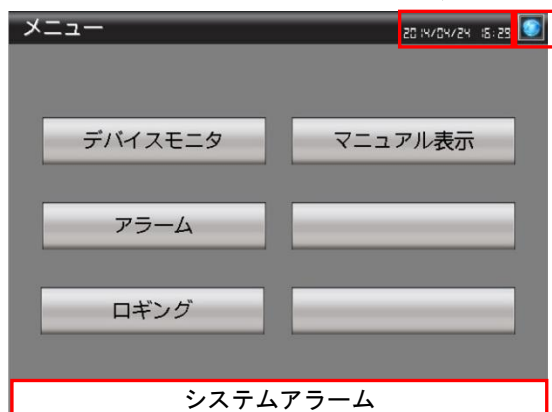
4.2.1 画面一覧・遷移(共通)



ウィンドウ画面 W-30003 : 時計設定



ウィンドウ画面 W-30002 : 言語設定

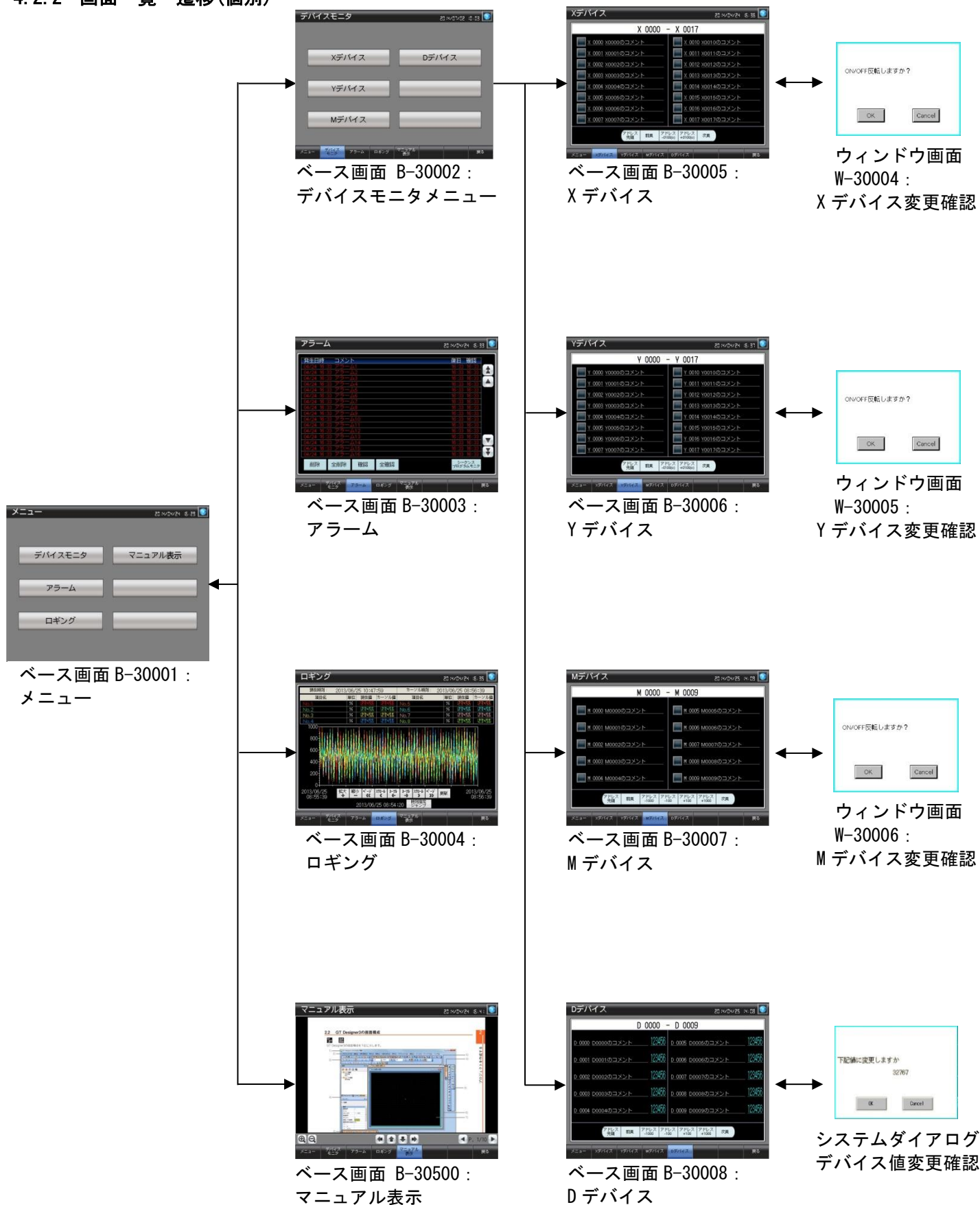


ベース画面 B-30001 : メニュー他全ベース画面



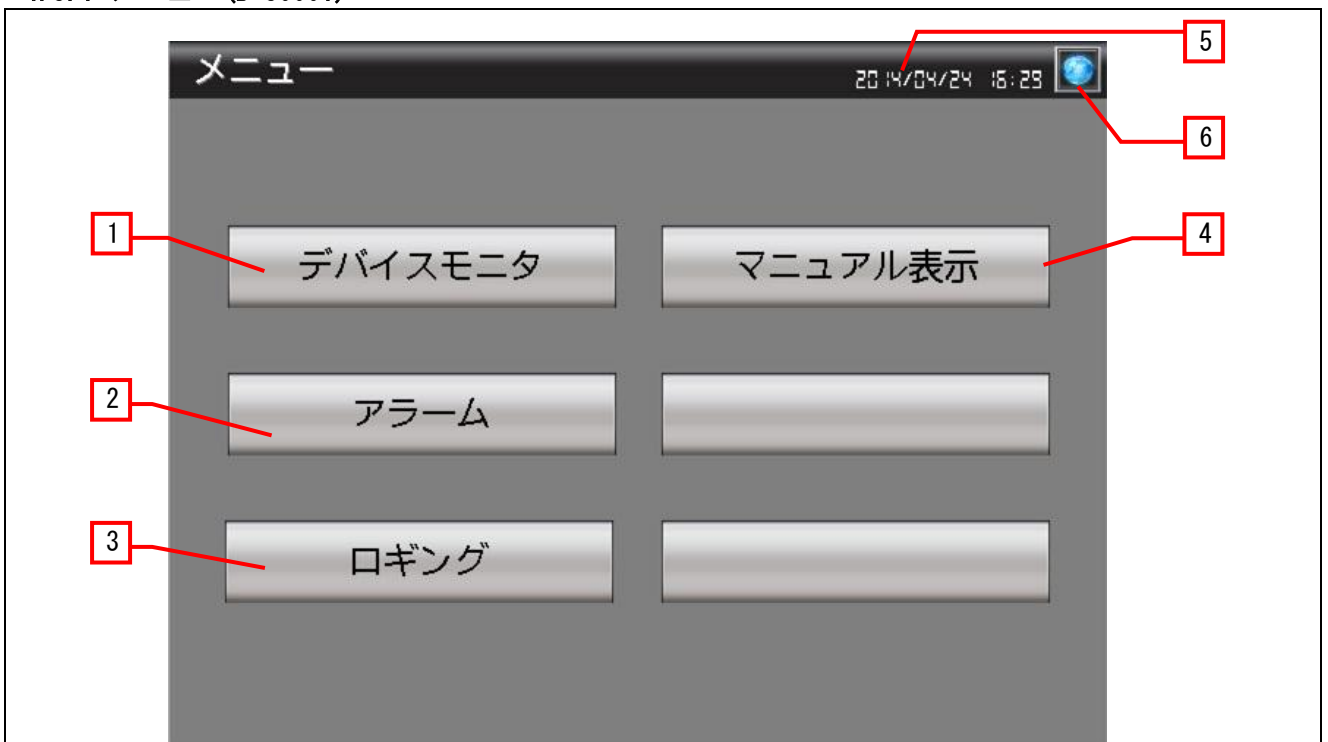
ウィンドウ画面 W-30001 : アラームリセット

4.2.2 画面一覧・遷移(個別)



4.3 画面説明

4.3.1 メニュー (B-30001)



概要

メニュー画面です。

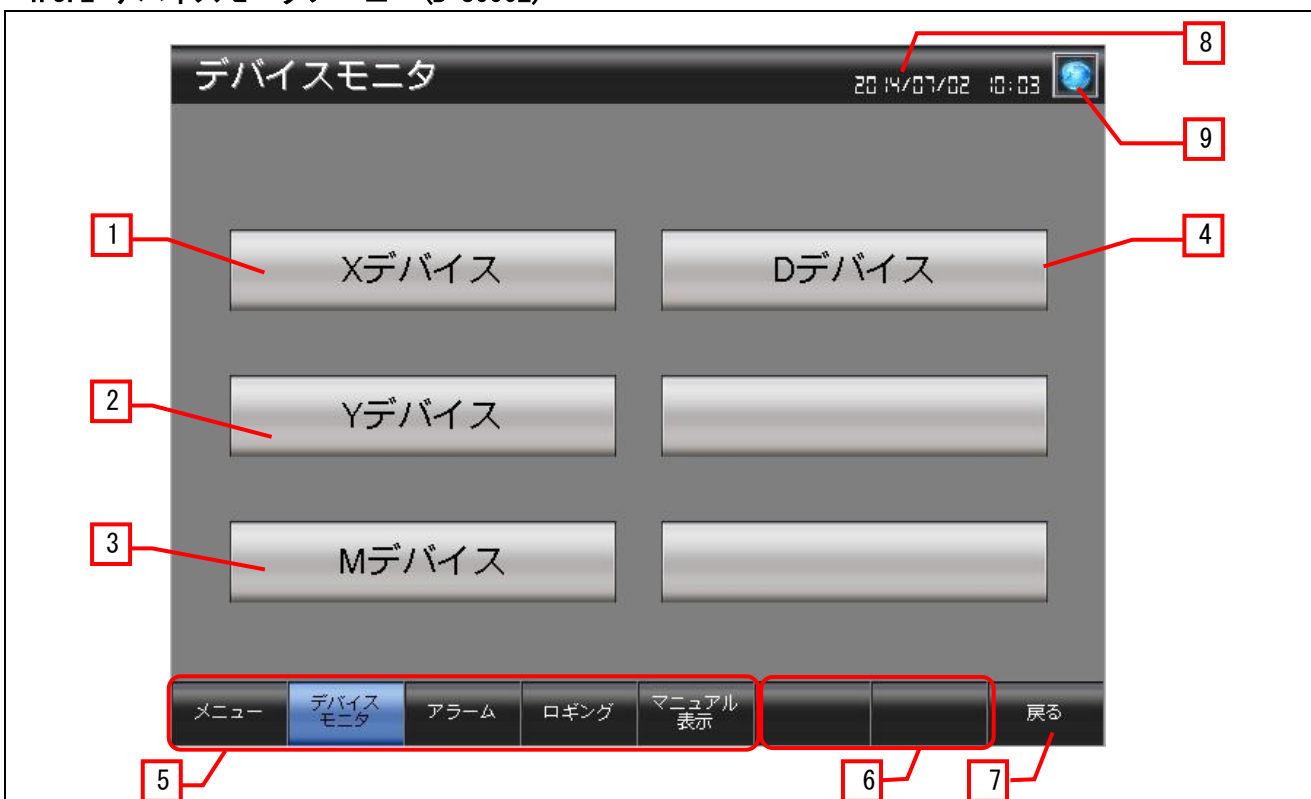
詳細

1. デバイスモニタメニュー画面に切り換えます。
2. アラーム画面に切り換えます。
3. ロギング画面に切り換えます。
4. マニュアル表示画面に切り換えます。
5. 現在の日時を表示します。タッチすると、時計設定ウィンドウを表示します。
6. 言語設定ウィンドウを表示します。

備考

- ・ システムアラームが発生した場合、画面下部にアラームメッセージを表示します。メッセージの左端をタッチすると、表示位置が画面上部、画面中央、画面下部の順に切り換わります。それ以外をタッチすると、アラームリセットウィンドウが表示されます。

4.3.2 デバイスマニタメニュー(B-30002)



概要

デバイスモニタメニュー画面です。

詳細

1. X デバイス画面に切り換えます。
2. Y デバイス画面に切り換えます。
3. M デバイス画面に切り換えます。
4. D デバイス画面に切り換えます。
5. 各画面に切り換えます。青色のスイッチは、現在表示中画面のため画面は切り換わりません。
6. 未使用のベース画面切り換えスイッチです。
7. 前回表示していた画面に切り換えます。
8. 現在の日時を表示します。タッチすると、時計設定ウィンドウを表示します。
9. 言語設定ウィンドウを表示します。

備考

- ・ システムアラームが発生した場合、画面下部にアラームメッセージを表示します。メッセージの左端をタッチすると、表示位置が画面上部、画面中央、画面下部の順に切り換わります。それ以外をタッチすると、アラームリセットウィンドウが表示されます。

4.3.3 アラーム (B-30003)



概要

アラームを履歴表示します。

詳細

- アラームを表示します。タッチでカーソルを表示/非表示します。アラーム表示上をタッチした状態で上下にフリックするとアラームを上下にスクロール表示します。
- アラームを操作します。
 - : 上下にページスクロールします。
 - : 上下に1行ずつスクロールします。
 - 削除 : 選択された復旧済みアラームを削除します。
 - 全削除 : 復旧済みアラームをすべて削除します。
 - 確認 : 選択アラームの日時表示(確認)をします。
 - 全確認 : 全アラームの日時表示(確認)をします。
 - 回路ジャンプ : 選択されたアラームの回路を表示します。
- 各画面に切り換えます。青色のスイッチは、現在表示中画面のため画面は切り換わりません。
- 未使用のベース画面切り換えスイッチです。
- 前回表示していた画面に切り換えます。
- 現在の日時を表示します。タッチすると、時計設定ウィンドウを表示します。
- 言語設定ウィンドウを表示します。

備考

- システムアラームが発生した場合、画面下部にアラームメッセージを表示します。メッセージの左端をタッチすると、表示位置が画面上部、画面中央、画面下部の順に切り換わります。それ以外をタッチすると、アラームリセットウィンドウが表示されます。

4.3.4 ロギング(B-30004)



概要

ロギング機能で収集した値を数値やヒストリカルトレンドグラフで表示します。

詳細

- No. 1～8 の現在値およびグラフ上のカーソル表示時刻の値を表示します。
- No. 1～8 の値をヒストリカルトレンドグラフで表示します。グラフ上をタッチすると、カーソルを表示します。グラフ上をタッチした状態で左右にフリックすると表示内容が左右にスクロール表示します。また、水平方向にピンチアウト・ピンチインすると時間軸を基準にグラフを拡大・縮小表示します。
- ヒストリカルトレンドグラフの表示開始位置時刻と表示終了位置時刻を表示します。
- ヒストリカルトレンドグラフを操作します。

拡大	: グラフの時間軸を新しいデータの軸を基準に、拡大(2倍)表示します。
縮小	: グラフの時間軸を新しいデータの軸を基準に、縮小(1/2倍)表示します。
ページ	: ページを左にスクロール表示します。
スクロール	: グラフを左にスクロール表示します。
カーソル	: カーソルを表示し、カーソルを古いデータの方向にスクロール表示します。
カーソル	: カーソルを表示し、カーソルを新しいデータの方向にスクロール表示します。
スクロール	: グラフを右にスクロール表示します。
ページ	: ページを右にスクロール表示します。
更新	: カーソルを消去し、最新のデータを表示します。
- 日時を入力し、時刻指定ジャンプスイッチをタッチすると指定した日時をグラフの中央に表示します。画面初回表示時には日時に現在日時を格納します。
- 各画面に切り換えます。青色のスイッチは、現在表示中画面のため画面は切り換わりません。
- 未使用のベース画面切り換えスイッチです。
- 前回表示していた画面に切り換えます。
- 現在の日時を表示します。タッチすると、時計設定ウィンドウを表示します。
- 言語設定ウィンドウを表示します。

備考

- ・ ヒストリカルトレンドグラフの時刻指定ジャンプ用に画面スクリプトを設定しています。スクリプトの詳細については、「4.6 スクリプト一覧」を参照してください。
- ・ システムアラームが発生した場合、画面下部にアラームメッセージを表示します。メッセージの左端をタッチすると、表示位置が画面上部、画面中央、画面下部の順に切り換わります。それ以外をタッチすると、アラームリセットウィンドウが表示されます。

4.3.5 X デバイス (B-30005)



概要

X デバイスのモニタと設定をします。

詳細

1. 現在モニタしているデバイス範囲を表示します。
2. 現在のデバイスの状態 (ランプ)、デバイス番号、コメントを表示します。ランプ、デバイス番号をタッチするとビットを反転します。変更時に変更確認ウィンドウを表示します。
3. モニタするデバイス番号を操作します。

アドレス先頭	: デバイス番号を先頭に切り換えます。
前頁	: デバイス番号を-16 点ごとに切り換えます。
アドレス-0100(o)	: デバイス番号を-64 点ごとに切り換えます。
アドレス+0100(o)	: デバイス番号を+64 点ごとに切り換えます。
次頁	: デバイス番号を+16 点ごとに切り換えます。
4. 各画面に切り換えます。青色のスイッチは、現在表示中画面のため画面は切り換わりません。
5. 未使用のベース画面切り換えスイッチです。
6. 前回表示していた画面に切り換えます。
7. 現在の日時を表示します。タッチすると、時計設定ウィンドウを表示します。
8. 言語設定ウィンドウを表示します。

備考

- ・ システムアラームが発生した場合、画面下部にアラームメッセージを表示します。メッセージの左端をタッチすると、表示位置が画面上部、画面中央、画面下部の順に切り換わりします。それ以外をタッチすると、アラームリセットウィンドウが表示されます。

4.3.6 Y デバイス (B-30006)



概要

Y デバイスのモニタと設定をします。

詳細

1. 現在モニタしているデバイス範囲を表示します。
2. 現在のデバイスの状態 (ランプ)、デバイス番号、コメントを表示します。ランプ、デバイス番号をタッチするとビットを反転します。変更時に変更確認ウィンドウを表示します。
3. モニタするデバイス番号を操作します。

アドレス先頭	: デバイス番号を先頭に切り換えます。
前頁	: デバイス番号を-16 点ごとに切り換えます。
アドレス-0100(o)	: デバイス番号を-64 点ごとに切り換えます。
アドレス+0100(o)	: デバイス番号を+64 点ごとに切り換えます。
次頁	: デバイス番号を+16 点ごとに切り換えます。
4. 各画面に切り換えます。青色のスイッチは、現在表示中画面のため画面は切り換わりません。
5. 未使用のベース画面切り換えスイッチです。
6. 前回表示していた画面に切り換えます。
7. 現在の日時を表示します。タッチすると、時計設定ウィンドウを表示します。
8. 言語設定ウィンドウを表示します。

備考

- ・ システムアラームが発生した場合、画面下部にアラームメッセージを表示します。メッセージの左端をタッチすると、表示位置が画面上部、画面中央、画面下部の順に切り換わります。それ以外をタッチすると、アラームリセットウィンドウが表示されます。

4.3.7 M デバイス (B-30007)



概要

M デバイスのモニタと設定をします。

詳細

1. 現在モニタしているデバイス範囲を表示します。
2. 現在のデバイスの状態 (ランプ)、デバイス番号、コメントを表示します。ランプ、デバイス番号をタッチするとビットを反転します。変更時に変更確認ウィンドウを表示します。
3. モニタするデバイス番号を操作します。

アドレス 先頭	: デバイス番号を先頭に切り換えます。
前頁	: デバイス番号を-10 点ごとに切り換えます。
アドレス -1000	: デバイス番号を-1000 点ごとに切り換えます。
アドレス -100	: デバイス番号を-100 点ごとに切り換えます。
アドレス +100	: デバイス番号を+100 点ごとに切り換えます。
アドレス +1000	: デバイス番号を+1000 点ごとに切り換えます。
次頁	: デバイス番号を+10 点ごとに切り換えます。
4. 各画面に切り換えます。青色のスイッチは、現在表示中画面のため画面は切り換わりません。
5. 未使用のベース画面切り換えスイッチです。
6. 前回表示していた画面に切り換えます。
7. 現在の日時を表示します。タッチすると、時計設定ウィンドウを表示します。
8. 言語設定ウィンドウを表示します。

備考

- ・ システムアラームが発生した場合、画面下部にアラームメッセージを表示します。メッセージの左端をタッチすると、表示位置が画面上部、画面中央、画面下部の順に切り換わります。それ以外をタッチすると、アラームリセットウィンドウが表示されます。

4.3.8 D デバイス (B-30008)



概要

D デバイスのモニタと設定をします。

詳細

1. 現在モニタしているデバイス範囲を表示します。
2. 現在のデバイス番号、コメント、デバイスの値を表示します。数値をタッチすると値を変更できます。変更時には入力確認ダイアログを表示します。
3. モニタするデバイス番号を操作します。
 - アドレス先頭 : デバイス番号を先頭に切り換えます。
 - 前頁 : デバイス番号を-10 点ごとに切り換えます。
 - アドレス-1000 : デバイス番号を-1000 点ごとに切り換えます。
 - アドレス-100 : デバイス番号を-100 点ごとに切り換えます。
 - アドレス+100 : デバイス番号を+100 点ごとに切り換えます。
 - アドレス+1000 : デバイス番号を+1000 点ごとに切り換えます。
 - 次頁 : デバイス番号を+10 点ごとに切り換えます。
4. 各画面に切り換えます。青色のスイッチは、現在表示中画面のため画面は切り換わりません。
5. 未使用のベース画面切り換えスイッチです。
6. 前回表示していた画面に切り換えます。
7. 現在の日時を表示します。タッチすると、時計設定ウィンドウを表示します。
8. 言語設定ウィンドウを表示します。

備考

- ・ システムアラームが発生した場合、画面下部にアラームメッセージを表示します。メッセージの左端をタッチすると、表示位置が画面上部、画面中央、画面下部の順に切り換わります。それ以外をタッチすると、アラームリセットウィンドウが表示されます。






4.3.9 マニュアル表示 (B-30500)



概要

表示中の言語に対応したマニュアルを表示します。

詳細

1. マニュアル表示は、言語に応じてそれぞれドキュメント ID 201～203 のドキュメントを表示します。画面初回表示時は1ページ目を表示します。ドキュメント上をタッチした状態で8方向にフリックするとドキュメントを8方向にスクロール表示します。ドキュメントの端が表示されている状態でフリックすると、ページを切り換えます。ピンチアウト・ピンチインすると、大・中・小の3段階で、ドキュメントが切り換わります。
2. 表示しているドキュメントを操作します。
 : 表示しているドキュメントを拡大/縮小します。
 : 表示しているドキュメントを左右にスクロールします。
 : 表示しているドキュメントを上下にスクロールします。
3. 表示しているドキュメントのページを操作します。
 : 表示しているドキュメントのページ数を表示します。数値をタッチするとページ番号を変更できます。
 : 表示しているドキュメントをページ送り/ページ戻しします。
4. 各画面に切り換えます。青色のスイッチは、現在表示中画面のため画面は切り換わりません。
5. 未使用のベース画面切り換えスイッチです。
6. 前回表示していた画面に切り換えます。
7. 現在の日時を表示します。タッチすると、時計設定ウィンドウを表示します。
8. 言語設定ウィンドウを表示します。

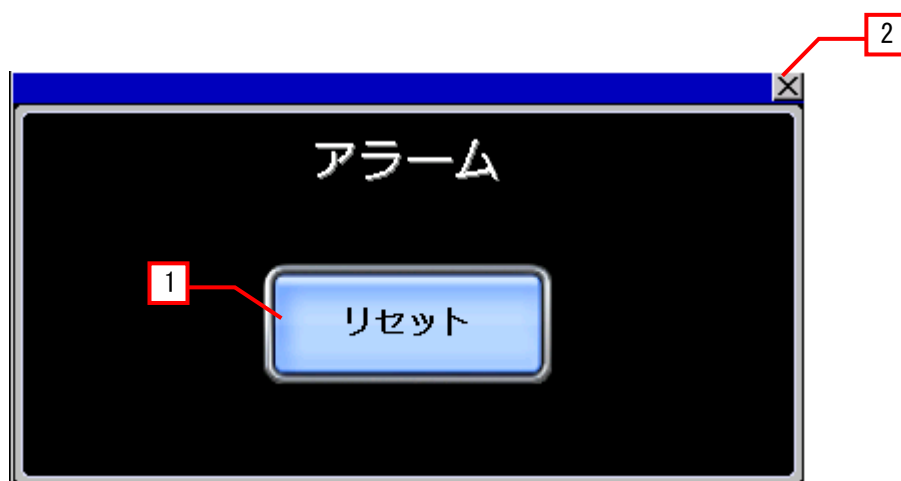
備考

- ・ マニュアル表示のドキュメントは表示言語切り換えに追従します。コメントグループ列 No. と言語、ドキュメント ID は下表のように対応しています。

コメントグループ列 No.	言語	ドキュメント ID
1	日本語	201
2	英語	202
3	中国語(簡体)	203

- ・ GOT 起動時に、プロジェクトスクリプトにてドキュメントページ No. に「1」、およびドキュメント ID に「201」を設定しています。スクリプトの詳細については、「4.6 スクリプト一覧」を参照してください。
- ・ ページ送りスイッチはオブジェクトスクリプトにて総ページ数を超えないようにしています。スクリプトの詳細については、「4.6 スクリプト一覧」を参照してください。
- ・ マニュアル表示用のドキュメントデータは、お客様で作成してください。詳細については、「5. マニュアル表示について」を参照してください。
- ・ システムアラームが発生した場合、画面下部にアラームメッセージを表示します。メッセージの左端をタッチすると、表示位置が画面上部、画面中央、画面下部の順に切り換わります。それ以外をタッチすると、アラームリセットウィンドウが表示されます。

4. 3. 10 アラームリセット (W-30001)



概要

システムアラームをリセットします。

詳細

1. システムアラームをリセットし、1 秒後にウィンドウ画面を閉じます。
2. ウィンドウ画面を閉じます。

備考

4. 3. 11 言語設定 (W-30002)



概要

GOT で表示する言語を選択します。

詳細

1. 言語を切り換え、ウィンドウ画面を閉じます。
2. ウィンドウ画面を閉じます。

備考

- ・ 表示言語にあわせてシステム言語とマニュアル表示のドキュメント ID も切り換える設定をしています。





4. 3. 12 時計設定 (W-30003)



概要

GOT の時計データを変更します。

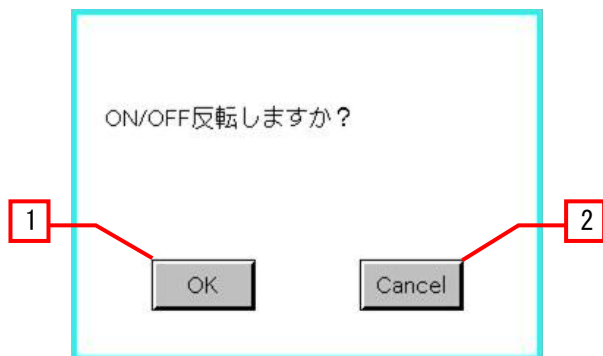
詳細

1. 現在の日時を表示します。
2. 変更したい日時を   スイッチで設定します。   スイッチは、長押しすると連続で増減します。リセットスイッチは、秒をリセットします。
3. 設定した日時を GOT の時計データに反映し、1 秒後にウィンドウ画面を閉じます。
4. ウィンドウ画面を閉じます。

備考

- ・ 変更する日時の初期値は、ウィンドウ画面を表示した時の日時です。
- ・ 変更する日時の年・月・日・時・分・秒の数値表示にオブジェクトスクリプトを設定しています。スクリプトの詳細については、「4.6 スクリプト一覧」を参照してください。

4. 3. 13 X(Y、M) デバイス変更確認 (W-30004~30006)



概要

ビットデバイスの ON/OFF 反転を実行するかキャンセルするかを選択します。

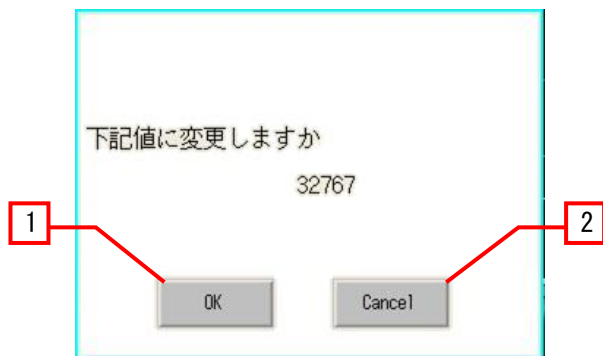
詳細

1. ビットデバイスの ON/OFF を反転してウィンドウ画面を閉じます。
2. ビットデバイスの ON/OFF を反転しないでウィンドウ画面を閉じます。

備考

- ・ウィンドウ画面を閉じる時、ベース画面上でブリンク表示しているデバイス番号を通常表示に戻します。
- ・上記動作を画面スクリプトで行っています。スクリプトの詳細については、「4.6 スクリプト一覧」を参照してください。

4.3.14 システムダイアログ



概要

ワードデバイスの値を変更するかキャンセルするかを選択します。

詳細

1. ワードデバイスの値を変更してウィンドウ画面を閉じます。
2. ワードデバイスの値を変更しないでウィンドウ画面を閉じます。

備考

4.4 使用デバイス一覧

画面上のスイッチやランプなどに設定されている一部のデバイスは、スクリプトなどの共通設定にも設定されている場合があります。これらのデバイスを一括で変更する場合には[一括変更]の使用を推奨します。[一括変更]の詳細については、「GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ」を参照してください。

4.4.1 接続機器のデバイス

タイプ	デバイス番号	用途
ビット	X0000～X0017	モニタデバイス (X)
	Y0000～Y0017	モニタデバイス (Y)
	M0～M0009	モニタデバイス (M)
	M0～M0019	ユーザアラーム監視デバイス (ID 30001)
ワード	D0～D0009	モニタデバイス (D)
	D0～D0007	ロギングデバイス (ID 30001)

4.4.2 GOT の内部デバイス

タイプ	デバイス番号	用途
ビット	GB40	スクリプトトリガ(常時 ON)
	GD60031. b13	GOT エラーリセット信号
	GD60041. b11	キーウィンドウ出力信号(システム信号 2-1)
	GD61009. b0～b15	X、Y、M デバイス画面、数値表示のスタイル条件
	GS512. b0	時刻変更信号
ワード	GD60000	ベース画面切り換え
	GD60001	オーバーラップウィンドウ 1 画面切り換え
	GD60004～GD60006	オーバーラップウィンドウ 2 画面切り換え
	GD60004	X、Y、M デバイス画面、デバイス番号操作スイッチの動作条件トリガデバイス
	GD60021	言語切り換え
	GD60022	システム言語切り換え
	GD60031、GD60041	システム情報
	GD60055	現在カーソル表示ユーザ ID(システム情報) D デバイス画面、数値入力のスタイル条件
	GD60080～GD60082	ドキュメント表示
	GD61000	X デバイス画面 オフセットデバイス
	GD61001	Y デバイス画面 オフセットデバイス
	GD61002	M デバイス画面 オフセットデバイス
	GD61003	D デバイス画面 オフセットデバイス
	GD61009	スクリプト No. 30102 X、Y、M デバイス画面、数値表示のスタイル条件の一括クリア
	GD61010	X デバイス変更確認画面 オフセットデバイス
	GD61011	Y デバイス変更確認画面 オフセットデバイス
	GD61012	M デバイス変更確認画面 オフセットデバイス
	GD61201～GD61208	ヒストリカルトレンドグラフ グラフ情報
	GD61221～GD61224	ヒストリカルトレンドグラフ カーソル位置時刻
	GD61225～GD61228	ヒストリカルトレンドグラフ 表示開始位置時刻
	GD61229～GD61232	ヒストリカルトレンドグラフ 表示終了位置時刻
	GD61233～GD61235	ヒストリカルトレンドグラフ 表示位置時刻指定
	GD63990～GD63995	時計のデジスイッチ
	GS513～GS516	変更時刻
	GS650～GS652	現在時刻
	TMP950～TMP996	スクリプト演算用

4.5 コメント一覧

コメントグループ No.	コメント No.	使用箇所
495	No. 1～16	B-30005
496	No. 1～16	B-30006
497	No. 1～10	B-30007
498	No. 1～10	B-30008
499	No. 1～20	B-30003(ユーザアラーム監視 ID 30001)
500	No. 1～6	B-30001～30008、B-30500
	No. 11	B-30002
	No. 12	B-30001
	No. 13	B-30500
	No. 21～29	B-30003
	No. 31～53	B-30004
	No. 61	B-30002、B-30005
	No. 62	B-30002、B-30006
	No. 63	B-30002、B-30007
	No. 64	B-30002、B-30008
	No. 71～72	B-30005～30008
	No. 73～76	B-30005～30006
	No. 77	B-30005～30008
	No. 78～81	B-30007～30008
	No. 101	W-30001
	No. 102	W-30001、W-30003
	No. 103	W-30002
	No. 104～111	W-30003
	No. 112～114	W-30004～30006

4.6 スクリプト一覧

項目	設定
プロジェクトスクリプト	有り
画面スクリプト	B-30004、B-30500、W-30004、W-30005、W-30006
オブジェクトスクリプト	B-30500、W-30003

4.6.1 プロジェクトスクリプト

スクリプト No.	30001	スクリプト名	Script30001
コメント	初期設定		
データ形式	符号付き BIN16	トリガ種別	立上り GB40
[w:GD60080]=201; //ドキュメント ID に 201 を設定 [w:GD60081]=1; //ドキュメントページNo.を 1 に設定			

4.6.2 画面スクリプト

ベース画面 30004

スクリプト No.	30101	スクリプト名	Script30101
コメント	現在時刻取得		
データ形式	符号付き BIN16	トリガ種別	立上り GB40
//画面表示時に年月日時分秒を格納 [w:GD61233]=[w:GS650]; [w:GD61234]=[w:GS651]; [w:GD61235]=[w:GS652];			

ベース画面 30500

スクリプト No.	30002	スクリプト名	Script30002
コメント	ドキュメント表示の最終ページの処理		
データ形式	符号付き BIN16	トリガ種別	常時
<pre>//総ページ数が0でないことを確認 if([w:GD60082] != 0) { //現在ページ数が総ページ数を超えているか比較する if([w:GD60081] > [w:GD60082]) { //表示するページを最終ページに設定する [w:GD60081] = [w:GD60082]; } }</pre>			

ウィンドウ画面 30004~30006

スクリプト No.	30102	スクリプト名	Script30102
コメント	ブリンク表示停止		
データ形式	符号付き BIN16	トリガ種別	画面を閉じる時
<pre>//指定デバイス番号のブリンク表示を止めます。 [w:GD61009]=0;</pre>			

4.6.3 オブジェクトスクリプト

ベース画面 30500

オブジェクト	スイッチ	オブジェクト ID *1	20025
スクリプトユーザ ID	1		
データ形式	符号付き BIN16	トリガ種別	デバイス書き込み時
<pre>//ページ数がドキュメントの総ページ数を超えないようにします。 if([u16:GD60081] >= [u16:GD60082]) { [u16:GD60081] = [u16:GD60082] - 1;</pre>			

ウィンドウ画面 30003

オブジェクト	数値表示	オブジェクト ID *1	10014
スクリプトユーザ ID	1		
データ形式	符号なし BIN16	トリガ種別	立上り GB40
<pre>//時計データより本日の年月を取得 [w:TMP950] = [w:GS650] & 0xF000; //設定用時計データより年の下2桁の10の位を取得 [w:TMP960] = [w:TMP950] >> 12; //桁合せ [w:TMP968] = [w:TMP960] * 10; //BCD->BIN [w:TMP951] = [w:GS650] & 0x0F00; //設定用時計データより年の下2桁の1の位を取得 [w:TMP961] = [w:TMP951] >> 8; //BCD->BIN [w:TMP973] = 2000 + [w:TMP968] + [w:TMP961]; //TMP973に年をBINでセット [w:GD63990] = [w:TMP973]; //年をセット [w:TMP952] = [w:GS650] & 0x00F0; //設定用時計データより月の10の位を取得 [w:TMP962] = [w:TMP952] >> 4; //桁合せ [w:TMP969] = [w:TMP962] * 10; //BCD->BIN [w:TMP953] = [w:GS650] & 0x000F; //設定用時計データより月の1の位を取得 [w:TMP974] = [w:TMP969] + [w:TMP953]; //TMP974に月をBINでセット [w:GD63991] = [w:TMP974]; //月をセット [w:TMP954] = [w:GS651] & 0xF000; //設定用時計データより日の下2桁の10の位を取得 [w:TMP963] = [w:TMP954] >> 12; //桁合せ [w:TMP970] = [w:TMP963] * 10; //BCD->BIN</pre>			

[w:TMP955] = [w:GS651] & 0x0F00; // 設定用時計データより日の下 2 桁の 1 の位を取得
 [w:TMP964] = [w:TMP955] >> 8; // BCD→BIN
 [w:TMP975] = [w:TMP970] + [w:TMP964]; // TMP975 に日を BIN でセット
 [w:GD63992] = [w:TMP975]; // 日をセット

[w:TMP956] = [w:GS651] & 0x00F0; // 設定用時計データより時の 10 の位を取得
 [w:TMP965] = [w:TMP956] >> 4; // 桁合せ
 [w:TMP971] = [w:TMP965] * 10; // BCD→BIN
 [w:TMP957] = [w:GS651] & 0x000F; // 設定用時計データより時の 1 の位を取得
 [w:TMP976] = [w:TMP971] + [w:TMP957]; // TMP976 に時を BIN でセット
 [w:GD63993] = [w:TMP976]; // 時をセット

[w:TMP958] = [w:GS652] & 0xF000; // 設定用時計データより分の下 2 桁の 10 の位を取得
 [w:TMP966] = [w:TMP958] >> 12; // 桁合せ
 [w:TMP972] = [w:TMP966] * 10; // BCD→BIN
 [w:TMP959] = [w:GS652] & 0x0F00; // 設定用時計データより分の下 2 桁の 1 の位を取得
 [w:TMP967] = [w:TMP959] >> 8; // BCD→BIN
 [w:TMP977] = [w:TMP972] + [w:TMP967]; // TMP977 に分を BIN でセット
 [w:GD63994] = [w:TMP977]; // 分をセット

[w:TMP993] = [w:GS652] & 0x00F0; // 設定用時計データより秒の 10 の位を取得
 [w:TMP995] = [w:TMP993] >> 4; // 桁合せ
 [w:TMP996] = [w:TMP995] * 10; // BCD→BIN
 [w:TMP994] = [w:GS652] & 0x000F; // 設定用時計データより秒の 1 の位を取得
 [w:TMP978] = [w:TMP996] + [w:TMP994]; // TMP978 に秒を BIN でセット
 [w:GD63995] = [w:TMP978]; // 秒をセット

オブジェクト	数値表示	オブジェクト ID *1	10015
スクリプトユーザ ID	2		
データ形式	符号なし BIN16	トリガ種別	常時

// BIN → BCD 変換

[w:TMP979] = [w:GD63990] - 2000; // 年の下 2 桁

[w:TMP980] = (([w:TMP979] / 10) << 4) + ([w:TMP979] % 10); // 年 BIN → BCD
 [w:TMP981] = (([w:GD63991] / 10) << 4) + ([w:GD63991] % 10); // 月 BIN → BCD
 [w:TMP982] = (([w:GD63992] / 10) << 4) + ([w:GD63992] % 10); // 日 BIN → BCD
 [w:TMP983] = (([w:GD63993] / 10) << 4) + ([w:GD63993] % 10); // 時 BIN → BCD
 [w:TMP984] = (([w:GD63994] / 10) << 4) + ([w:GD63994] % 10); // 分 BIN → BCD
 [w:TMP985] = (([w:GD63995] / 10) << 4) + ([w:GD63995] % 10); // 秒 BIN → BCD

オブジェクト	数値表示	オブジェクト ID *1	10016
スクリプトユーザ ID	3		
データ形式	符号なし BIN16	トリガ種別	常時

// 年月設定

[w:GS513] = ([w:TMP980] << 8) + [w:TMP981]; // 変更時刻デバイスに年月セット

オブジェクト	数値表示	オブジェクト ID *1	10017
スクリプトユーザ ID	4		
データ形式	符号なし BIN16	トリガ種別	常時

// 日時設定

[w:GS514] = ([w:TMP982] << 8) + [w:TMP983]; // 変更時刻デバイスに日時セット

オブジェクト	数値表示	オブジェクト ID *1	10018
スクリプトユーザ ID	5		
データ形式	符号なし BIN16	トリガ種別	常時
// 分秒設定			
[w:GS515] = ([w:TMP984] << 8) + [w:TMP985]; // 変更時刻デバイスに分秒セット			
オブジェクト	数値表示	オブジェクト ID *1	10019
スクリプトユーザ ID	6		
データ形式	符号なし BIN16	トリガ種別	常時
// 曜日設定			
[w:TMP986] = [w:GD63990]; //年(BIN)			
[w:TMP987] = [w:GD63991]; //月(BIN)			
[w:TMP988] = [w:GD63992]; //日(BIN)			
if((([w:TMP987] == 1) ([w:TMP987] == 2)) { //1・2 月の場合のみ前年の 13・14 月として計算するための補正処理			
[w:TMP986] = [w:TMP986] - 1; //年から 1 を減算			
[w:TMP987] = [w:TMP987] + 12; //月に 12 を加算			
}			
[w:TMP989] = [w:TMP986]/4; //ツェラーの公式に必要な項を作成			
[w:TMP990] = [w:TMP986]/100; //ツェラーの公式に必要な項を作成			
[w:TMP991] = [w:TMP986]/400; //ツェラーの公式に必要な項を作成			
[w:TMP992] = (13*[w:TMP987]+8)/5; //ツェラーの公式に必要な項を作成			
//ツェラーの公式で曜日算出して変更時刻デバイスに曜日をセット			
[w:GS516] = ([w:TMP986]+[w:TMP989]-[w:TMP990]+[w:TMP991]+[w:TMP992]+[w:TMP988])%7;			

*1 オブジェクト ID は画面流用時に変更される場合があります。

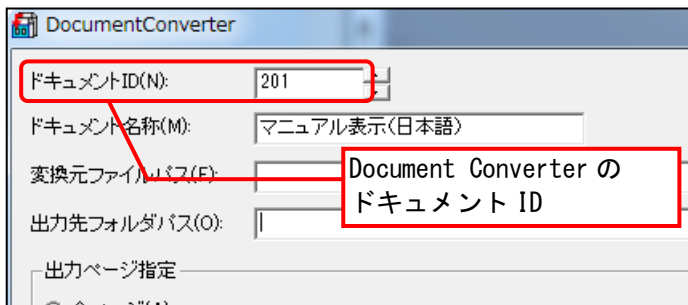
5. マニュアル表示について

マニュアル表示は、ドキュメント表示機能を使用して表示しています。ドキュメント表示機能の詳細については、「GT Designer3 (GOT2000) ヘルプ」を参照してください。ドキュメント表示機能は言語切り換えに非対応のため、サンプル画面では選択した表示言語にあわせてドキュメント ID を変更することで、ドキュメントの言語切り換えを実現しています。

5.1 マニュアル表示用ドキュメントデータの準備

例：ベース画面 B-30500：マニュアル表示に日本語のマニュアル(ドキュメント)を表示する場合

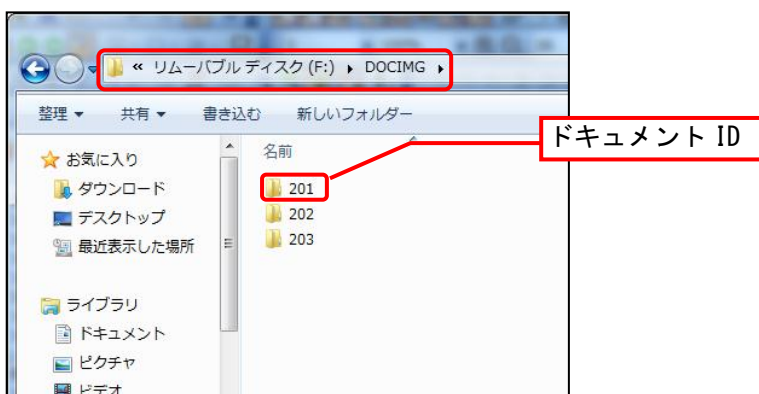
- (1) 表示するマニュアル(Word や Excel など)を Document Converter を使用してドキュメント表示機能用のドキュメントデータ(JPEG ファイル)に変換します。Document Converter の[ドキュメント ID]に 201 を設定します。
※ドキュメント ID と表示言語の対応は下記表を参照してください。



コメントグループ列 No.	言語	ドキュメント ID
1	日本語	201
2	英語	202
3	中国語(簡体)	203

※Document Converter は 2.09K 以降のバージョンを使用してください。2.08J 以前のバージョンでは総ページ数とページ切り換えスイッチが正しく動作しません。

- (2) ドキュメントデータは DOCIMG フォルダの 201 フォルダ内に生成されます。DOCIMG フォルダ以下のフォルダ構成は変更せずに、DOCIMG フォルダごと SD カードのルートディレクトリに保存してください。



SD カードのフォルダ構成

備考：総ページ数が 100 ページ以上の場合

本サンプルは総ページ数が 99 ページまでのドキュメントを想定しています。100 ページ以上の場合、総ページ数および現在表示中ページ番号の表示を行う数値表示の書式文字列(＃の数)を修正してください。

6. その他

6.1 システムアプリケーションの手動選択方法

GOT へパッケージデータを書き込む時に自動選択されないシステムアプリケーションは、以下の手順で選択してください。

例：FX 回路モニタ機能を選択する場合

